

# 災害に強く平時から支え合える

## 地域づくり

静岡県静岡市駿河区 西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会

### 活動目的

地域防災を担う自治会役員からは、「要配慮者の支援体制づくりまで手が回らない」「高齢者はともかく、障がい児者はわからない」「地域のつながりが弱まって子ども会や老人会は活動中止、地域行事にも参加者が集まらない」とよく聞きます。かつては当たり前にあった地域での助け合いを時代の流れにまかせて衰退させてしまっているのか、ハンディがあり自助に制限のある要配慮者を災害時に取り残してしまうのは仕方ないことなのか。この問いに大きく「NO!」を掲げて災害時に誰もが助かる地域を目指し、平時からの住民同士で支え合える体制づくりに取り組んでいます。

地域住民と保健福祉専門職等が実行委員会を結成し、静岡市駿河区西豊田学区を基盤に要配慮者支援をテーマに福祉と防災を融合させたインクルーシブ防災活動で、実行委員の所属、年齢、性別など多様性も特色です。活動を継続し、毎年内容・方法をバージョンアップできているのは、義務感や強制的な参加ではなく、肩肘張らずに参加すること自体が楽しく、ボランティアでゆるやかなつながりです。実行委員会ではうまくいかなかったことこそ次につながるというスタンスで、やらない・やれない理由を前に立ち止まらないことをモットーとしています。半歩でも前へ踏み出してみることとを恐れず、その想いがメンバー間で共感・共有できているからこそ気兼ねなく関わり



実行委員会（第4金曜日）：会場は学区内の障害福祉事業所

続けられるのだと思います。  
災害時に力を発揮できるよう、平時から



住民同士で支え合える地域づくりを目指す本活動は今年度で10年目。令和3年及び令和6年度静岡県社会福祉協議会「ふじのくに地域共生大賞」「優秀賞や令和4年度日本地域福祉学会「地域福祉優秀実践賞」を受賞するなど外部からも評価されています。また、小学4年生社会科副読本に本活動が紹介されています。令和7年度は、内閣府「コミュニティ防災教育推進事業」モデル事業に採択され、静岡市「SDGsチャレンジ連携アワード」大賞を受賞しました。

## 活動内容

能登半島地震でまた繰り返し返された避難所TKB「汚いトイレ、冷たい食事、堅い床での雑魚寝」。この問題解決に向け、本活動の3本柱は、①避難所運営や要配慮者支援を学ぶ「事前研修」、②その学びを1泊2日宿泊型防災訓練で体験する「実践訓練」、③それらの活動を検証し次の活動につなげる要配慮者支援シンポジウムの「事後研修」。「楽しく、主体的に、共に」を合言葉に、どれも地域住民を対象とし、参加者が自ら学び、試し、習得するという参加実践型防災教育プログラムです。

コロナ禍で地域防災訓練が中止（又は規模縮小）の中、災害は大人しく待つてはくれないを共通認識に、だからこそすべき・できる訓練を実現しようと感じ感染症対応の避難所開設訓練を3年間実施し、その対応を積み重ねました。コロナ禍のため参加者募集をせず、実行委員や協力する関係団体等の呼び掛けだけで令和2年度が70人、令和3年度が105人、令和4年度が124人と活動は着実に地域に浸透しています。

コロナ禍で求められる避難所対応を参加住民が実体験できた意義はとても大きいと思っっています。最も大きな成果は、学区内2カ所の指定避難所のレイアウトが完成し、それに基づいて住民主体で訓練ができたこと。一般避難者の居住環境、要配慮者の福

祉避難スペース、発熱者等の隔離エリアなど求められる配置や配慮を実際に実践し、課題も可視化できました。なによりも避難所開設に向けて住民による運営側が何をし、どう動くかを体験できたことが大きく、緊急避難で混乱する中で地域住民が主体的に運営に携わることを学び、課題を把握できました。コロナ禍後は活動3本柱を中心に年間を通して活動継続しています。

## 活動成果

地域では福祉や防災の担い手不足・高齢化、住民同士の関係性希薄化など深刻な課



事前研修：多様な世代で避難所運営を学ぶ参加型ワークショップ



コロナ禍の感染症対応避難所開設訓練



令和6年度からは防災かまどベンチづくりにも取り組み学区内に5基製作

題を抱えています。ただ、人手がない、資金がない、拠点がない、余裕がない、要配慮者はわからないとやらない・できない理由を挙げてもきりがありません。災害時に対応する「防災」と平常時の「福祉」と連動させて多世代が交流し支え合える地域づくりをできることから始めようからスタートした活動です。防災活動も福祉支援も地域の人と人のつながりづくり・まちづくりのきっかけや手段として活動に取り組んでおり、着実にその成果が表れています。従来の自主防災会の形式的な地域防災訓練に代わるものとして学区自治会にこの活動の理解が進んでいます。住民支え合い活動の担

う学区民児協・地区社協や学校・PTAも様々な形で活動に協力をして頂いています。その他、静岡市、静岡市社協、保健福祉事業所など地域福祉を担う多様な機関や施設なども本活動でつながり、災害に強いボトムアップ型の地域共生社会づくりへの一つのモデルとして評価されています。

成果を示すエピソードをひとつ。12月宿泊型防災訓練には地域の障がい者グループホーム利用者11名（＋支援者4人）と放課後デイサービス利用者11人（＋支援者3人）が参加し、体育館での宿泊を体験しました。プログラムでは参加者全員で体育館内に福祉避難スペースを設置しましたが、地域の方々と障がい児者が一緒に作業し交流する機会になりました。その後の活動もまさに寝食を共に過ごすことで関係性やそれぞれの気づきが生まれて理解や共感が深まりました。訓練後には、地域での挨拶や声掛けが日常になり、日頃から共に地域で暮らす者同士が防災活動を通して育んだつながりや関わりはまさしく本活動の成果であり、目指している支え合える地域コミュニティの姿です。もしこの地域で災害が起これば、障害の有無にかかわらずお互いが何かできること・すべきことに自然と動くはずで

地域で要慮者支援の体制づくりがなかなか進みません。多様な豊かな共生社会づく



事後研修：要配慮者支援シンポジウム

りに向けて平時の福祉と災害時の防災が連携するインクルーシブ防災活動を切り口に、停滞している地域の防災活動や多世代交流が前に進み、平時から要配慮者を含め「誰一人取り残さない」支え合いの輪が広がりに連鎖していくよう、実直かつ大胆にインクルーシブ防災活動の実践を今後も積み重ねていきます。災害に強い、平時から支え合える地域づくりに向け、活動は毎年バージョンアップを積み重ね、その協力者の輪も広がり誰もが助かる地域を目指して実践的で創造的なインクルーシブ防災活動に取り組んでいきます。

（西豊田学区地域支え合い体制づくり

実行委員会 代表 江原勝幸）